

新型コロナウイルス感染症に関する市内の状況について

1 感染の状況

本市の陽性患者数は、6月28日時点で585人となり、これまでに500人の方が退院等され、45人の方が亡くなられています。

感染の状況としては、3月下旬から増加傾向となり、4月11日には1日あたりで最大となる36人の公表を行いました。また、4月から5月にかけては、クラスターが発生したこともあり、陽性患者数は5月中旬まで多い日が続きました。

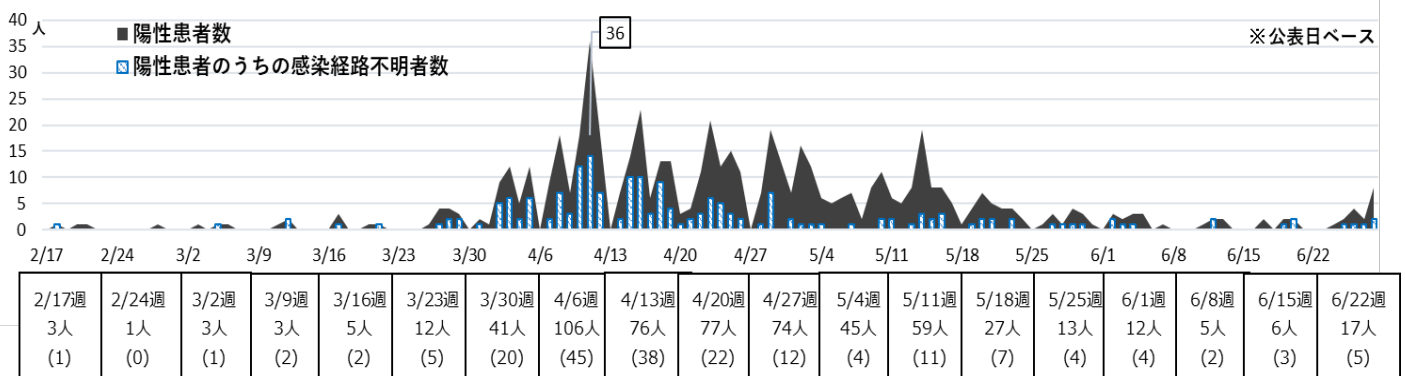
5月下旬に緊急事態宣言が解除されて以降、新たな陽性患者数は少なくなっていました。が、ここ数日は増加する日も見られており、注意が必要な状況となっています。

感染拡大防止のために、濃厚接触者の検査やクラスター対策をしっかりと進めます。

(1) 陽性患者数（令和2年6月28日時点）

ア 累積陽性患者数：585人（退院等500人、死亡45人） うち感染経路が不明な方188人

イ 直近1週間の陽性患者数：17人 うち感染経路が不明な方 5人



※（ ）内は陽性患者数のうち感染経路不明者数（速報値）。今後、疫学調査により感染経路不明者の数が変動する可能性あり。

(2) クラスターの状況（令和2年6月28日時点）

これまでに、医療機関や社会福祉施設において、13のクラスター^{※1}が発生しました。どのクラスターも現在は収束していますが、本市陽性患者数のうち4割弱がクラスターによるものでした。

このことから、第2波に備えた予防対策・準備として、「横浜版クラスター予防・対策チーム」を設置するなど、感染予防策の改善指導等^{※2}を進めていきます。

※1 これまでに発生したクラスター

- ・医療機関（8か所）：感染者数175人（うち 患者 72人[※]、職員103人）
※うち27人死亡
- ・社会福祉施設（5か所）：感染者数 43人（うち 利用者23人[※]、職員20人）
※うち 8人死亡

※2 第2波に備えた予防対策・準備

横浜版クラスター予防・対策チームの設置 (感染予防策の改善指導等の実施)

平時から医療機関や高齢者施設等に出向き、標準予防策や見落とししやすい消毒場所の確認、ゾーニングに関する助言など予防対策を重点的に実施。

発生時には区と連携して直ちに立入調査を実施し、これまでの事例や平時での取組を踏まえ、原因究明や濃厚接触者の特定など専門家の視点から感染拡大防止の取組を指導。

医療従事者や施設職員のスキルアップ

病院職員が感染症対応に関する研修等を受講する際の費用の補助。

防護具の着脱方法や消毒、施設内ゾーニング等に関する医療従事者向け研修の実施。

高齢者施設や障害者施設等の職員を対象とした集合研修を区と連携して実施。

2 医療提供体制

6月28日時点で、27名の方が入院されています。

入院患者数が多かった時期は、4月下旬から5月上旬にかけてで、100人前後の方が入院されていました。(人工呼吸器最大使用数16、ECMO最大使用数3)

(1) 陽性患者の状況 (令和2年6月28日時点)

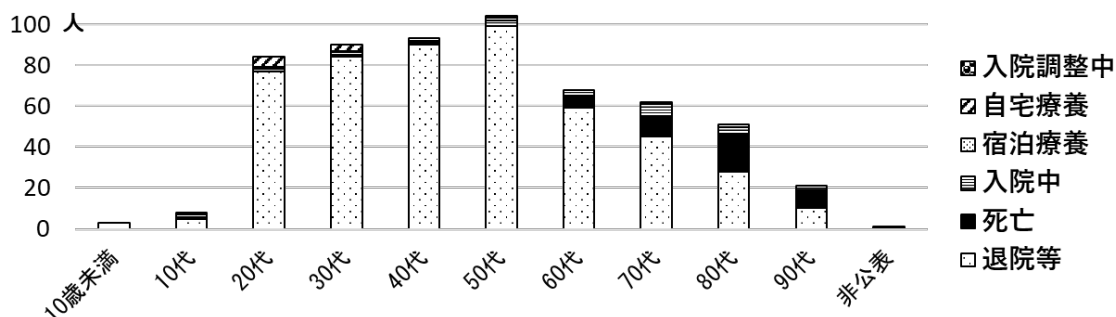
入院中			入院中計	宿泊療養	自宅療養	入院調整中	退院等	死亡	計
重症	中等症	軽症・無症状							
7	7	13	27	4	9	0	500	45	585

【参考】年代別の状況

陽性患者のうち、9割弱の方が退院等されています。

現在入院中の方は、年代別でみると、70代以上の方が多くなっています。

また、亡くなられた方の割合も、年代が上がるほど多くなっています。



(2) 医療提供体制の確保状況 (令和2年6月28日時点)

中等症・重症用:病床約500床確保 (人工呼吸器303台、ECMO32台を保有 (厚生労働省集計値))

軽症・無症状者用:横浜市宿泊療養施設を約200床確保

3 監視体制

市衛生研究所の検査機器を2台から4台に増設するとともに、民間検査機関による検査、簡易検体採取所での検査実施など、検査体制の拡充に努めています。

再度の感染拡大に備え、簡易検体採取の体制強化や往診による検体採取、帰国者・接触者外来等への搬送体制強化を進めます。

また、感染リスクが低いとされる唾液によるPCR検査が保険適用となったことを受け、身近な場所でPCR検査が受けられるよう、診療所等受診体制の整備を進めます。

【PCR 検査実施者数】

(令和2年6月21日現在)

種 別	累積数
衛生研究所 (A)	2,922人
医療機関 (民間検査機関及び院内検査) (B)	6,345人
簡易検体採取所 (C)	1,035人
総数 (A) + (B) + (C)	10,302人

速報値として公表しており、後日確定データとして修正される場合があります。

(A) DP 船乗客・乗員に関連した検査実施者延べ人数 282 人を含む (6月26日現在)

(B) 医療機関での検査実施者数 (民間検査機関及び院内検査) は、4月1日以降に横浜市に報告された人数 (6月26日現在)

【参考】抗原検査

抗原検査については、30分程度で結果が出ること、特別な検査機器や試薬を必要としないこと、検体を搬送する必要がないことなど、大きなメリットがあります。

一方でPCR検査と比較して検出に一定以上のウイルス量が必要である (感度がPCR検査よりも低い) という課題もあり、重症者について速やかに判定し医療につなげられること、判定に急を要する救急搬送の患者に使うこと、症状のある医療従事者や入院患者の判定を速やかに行うことなど、様々な場面での活用により、効果的な検査の実施が期待されています。

4 相談体制

2月に、感染症コールセンター及び帰国者・接触者相談センターを開設し、その後も相談件数の増加に合わせて回線数を増設するなど、市民の皆様の不安軽減に努めています。

相談件数	2月 (2/10～)	3月	4月	5月	6月 (～6/21)
感染症コールセンター	3,588件	9,287件	12,637件	9,710件	5,243件
帰国者・接触者 相談センター	2,001件	6,168件	10,531件	9,111件	4,669件